

ファイトクローム (東京)

ファイトクロームは、植物が持つ免疫力を高める肥料を販売する。全国1方畝の水田で使われている倒伏軽減効果のある錠剤タイプの「ファイト・アップ」など、品質向上や増収につながる肥料を提案。免疫方向上で、減肥や減農薬栽培が進められ、省力化と所得向上を後押しする。

大手商社の農業資材担当だった内田啓祐社長が、駐在先のアフリカや南米などで大規模農業を目の当たりにして「日本の農業は量で勝負はできない。攻めるには、質を重視する必要がある」と考え、肥料メーカーの開発者と共に同社を設立。農業に頼らず「植物本来の力を引き出す」を方針に、微生物抽出物やアミノ酸、微量元素などをバランス良く配合し、作物の成長促進や病害抵抗性の向上が見込める肥料「ファイト」シリーズを商品化し、販売する。水稲向けには、通常の移

作物の抵抗性に着目 肥料で質向上・省力化を提案

植から疎植、直播(ちよくは)などの作型に対応した肥料をそろえる。主に育苗に使う液肥「ファイト・オーツ」は、稲に「傷が付いた」というストレスを錯覚させることで免疫力を高める。植物は、傷付くと細胞膜にある脂質が酸化し、傷口をふさいだり、根張りや成長を促したりする反応を起こす。同商品には、同じ反応を引き起こす酵母から抽出した成分を含む。「ファイト・アップ」は、

根張り向上や倒伏軽減をアピールする。酵母抽出物とアミノ酸を含み、直播や疎植は、初期生育が良くなる。新潟県などで倒伏軽減効果を実証。錠剤タイプで、散布は生育初期であれば10ヶ当たり5錠(1錠50g)を投げ込むだけ。同じ作用が見込めるケイ酸カルシウムの散布より作業が省力化できるという。

水稲や麦、野菜などの種子に混合して発芽すると苗立ちをよくする「ネバルくん」は、微生物の代謝成分を含む。水稲の鉄コーティング直播では、宮城県と協力して試験し、苗立ち率1割向上を確認した。

大豆の節数とさや数が増え、2割ほど増収が見込める肥料「花吹雪」は、北海道の大豆面積の2割に普及する。この他に野菜、果樹、花きなどにも使える肥料を扱う。内田社長は「減農薬や生産コスト低減のニーズが高まり、栽培方法も多様化してきている。現場の課題に一つずつ解決策を提案していきたい」と展望する。



■会社概要 2002年設立。配合肥料、特殊肥料の販売。従業員24人。売上高約5億円。

■所在地 〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2の11 外濠スカイビル301 電03(431

6)49200。

主力の「ファイト」シリーズを紹介する内田社長。多様な品目と作型に対応する(東京都新宿区で)